

# 南区 第5号 介護相談員だより



南区マスコットキャラクター みなっち

## 永年活動功労者表彰を受賞しました！

令和3年12月17日に、都内で「全国介護相談活動事例報告会」が開催されました。

この会は、介護相談員事業の全国的な事務局となっている「介護相談・地域づくり連絡会」が介護相談員派遣事業の充実を図ることを目的として毎年開催しているものです。その中で、「介護相談員永年活動功労者表彰式」が行われ、10年以上活動を続けていらっしゃる全国の介護相談員239名が表彰を受けました。

南区では、平成18年から活動されている小山和男さんと渡邊佳世子さんが15年表彰を、平成23年度から活動されている平田忍さんが10年表彰を受賞しました。活動を振り返っての思い出などを語っていただきます！



### ～小山さんのお話～

介護保険制度の施行とともに、介護相談員の制度が誕生。私は、平成18年度から介護相談員派遣事業に参加しています。

サービス提供事業者が実施する介護サービスの対象は、物ではなく人間です。いかにして利用者のQOLの向上をはかることができるかに気付くか配慮しながら巡回しています。

介護保険施設には、重度の方から軽度の方まで入所されています。挨拶をしながら巡回しますが、入所者の心の安定を保つことの難しさを実感するとともに、お話をすることの大切さを痛感しています。男性は会話の少ない方が多く、女性は会話が止まらなくなることも。耳の悪い方や目の悪い方もいらっしゃいます。家族の方との面会時の顔を想像しながら対話しています。また、施設の従事者との会話も大切にしています。

我々ホモ・サピエンスが有史以来生き延びられたのは、社会というコミュニティを作り、多くの方々の力を借りながら生活してきたことを実感する毎日です。



### ～渡邊さんのお話～

介護相談員になった15年前、まず、上大岡で、神奈川県全体研修会がありました。遠くからきている方も沢山いる中、私は近隣からの参加で小さくなって研修を受けていました。朝9時から夕方5時まで、電話帳のような教材での一週間の講義と2日間の特別養護老人ホームでの実地研修という、ハードな内容の研修の後、ようやく修了証をいただきました！



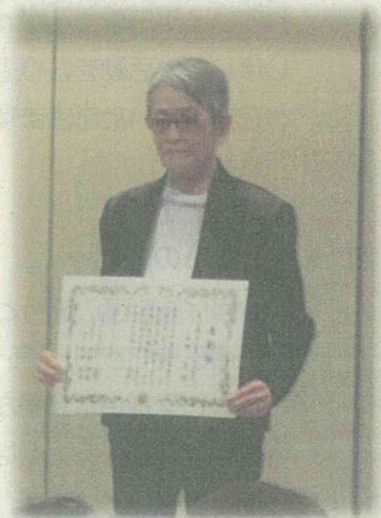
それから15年、今まで4つの施設の相談員として活動してきました。毎月訪問していると一人ひとりのことが良く分かります。同じ地域の方に出会い、訪問の度に地域のお話をしたり、最後のお別れの時に訪問していたこともあり、「ここに入所してよかった」と思っていたらなあと思って皆様のお話を伺っています。

コロナ禍で、訪問することができず、施設に電話で様子を伺うことしかできません。早く施設の皆様にお会いして、笑顔でお話しができることを願っています。

### ～平田さんのお話～

長いようで短い10年！介護相談員とはどのような仕事かも分からずに引き受けました。研修（重責を自問自答）が終了し、実践です。当時の施設では、介護相談員が浸透しておらず、「何をしに来たの？」という様子でした。月1回の訪問を重ねるにつれて施設職員や利用者との距離も徐々に縮まり信頼関係が生まれてきました。現在は「気づき」を伝える事により改善につながっていると感じられます。「自分が入所する」ならどの様な環境が良いのかと、活動の視点も変化してきました。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の流行により、一昨年、昨年、今年とまだまだ先の見えぬ状態で活動休止を余儀なくされています。利用者や家族、施設職員の方々のご苦勞を推察します。一日も早い収束を願い、七色の虹の懸け橋になれるような活動をしていきたいと思えます。



## 介護相談員はこんな活動を行っています

特別養護老人ホームや介護老人保健施設、グループホームなど、介護サービス提供の場を定期的に訪問し、サービス利用者やご家族の不安に耳を傾けて相談にのります。そして、相談内容に応じて、利用者やサービス提供事業者との橋渡しを行い、サービスの質の向上と適正化に貢献しています。利用者の孤独感の解消等の精神的なサポートの役割も担っていますので、相談に限らず、利用者の話を傾聴することも行います。活動内容は「相談記録票」や「活動報告書」などで毎回区役所に報告され、情報の共有化がなされています。

現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、施設への訪問活動を休止しています。